

令和6年度 中瀬小学校 学校評価

I 令和6年度の本校の取組み

学校教育目標：自ら学び 共に高め合う子

なかよく【豊かな心】

かしこく【確かな学力】

ぜんりよく【健やかな身体】

＜自分も友達も大切にする力＞
○互いを認め、自分のよさをいかながら協働する子
・自分のよさを発揮し、事故有用感を高められる特別活動の実践（学級活動・縦割り活動・児童会活動）
・道徳授業の工夫改善・挨拶運動
・体験活動の充実

＜課題を見つけ解決する力＞
○主体的に課題解決に取り組む子
・「主体的・対話的で深い学び」を目指した授業実践（子供の「学びたい！」を大切にした単元構想）
・教科担任制による指導力強化
・ICT活用
・読書活動の充実

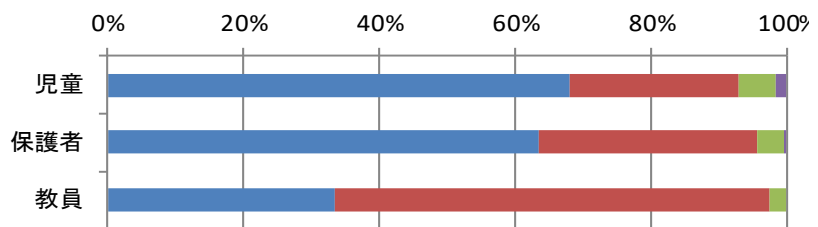
＜夢に向かって努力する力＞
○目標に向かって粘り強く取り組む子
・学習カードを活用した体力作り
・体育学習の充実
・健康教育の推進（規則正しい生活習慣）
・防犯訓練や防災訓練・防災教育の実施

II 自己評価

児童、保護者、教員との比較

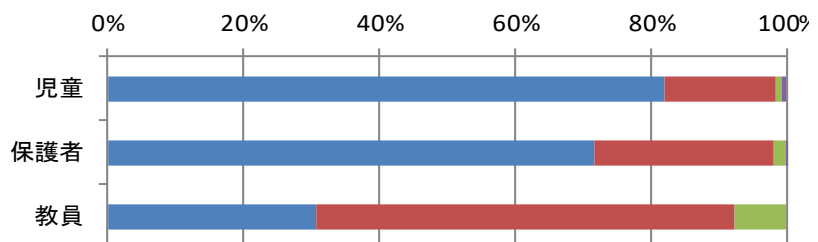
1. 自分を大切にしている。

	A	B	C	D
児童	68.2%	24.9%	5.4%	1.5%
保護者	63.4%	32.2%	4.1%	0.3%
教員	33.3%	64.1%	2.6%	0.0%



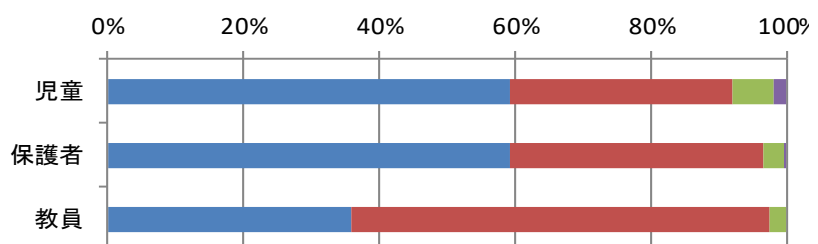
2. 友達を大切にしている。

	A	B	C	D
児童	82.0%	16.3%	1.1%	0.6%
保護者	71.7%	26.4%	1.8%	0.2%
教員	30.8%	61.5%	7.7%	0.0%



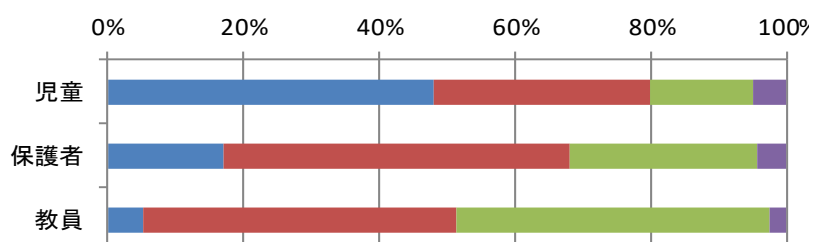
3. 友達と一緒に助け合って活動することができる。

	A	B	C	D
児童	59.2%	33.0%	6.1%	1.8%
保護者	59.2%	37.3%	3.2%	0.3%
教員	35.9%	61.5%	2.6%	0.0%



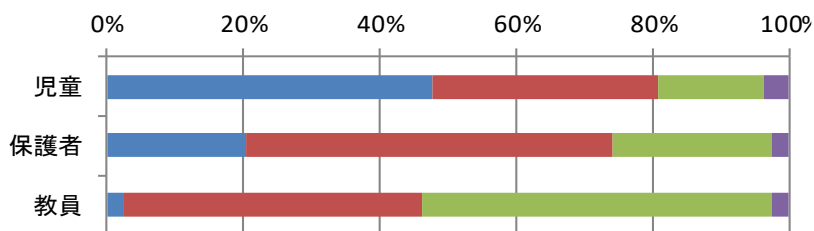
4. 学習において、自分から課題（目標）を見つけて取り組むことができる。

	A	B	C	D
児童	48.0%	31.8%	15.2%	4.9%
保護者	17.0%	51.0%	27.5%	4.5%
教員	5.1%	46.2%	46.2%	2.6%



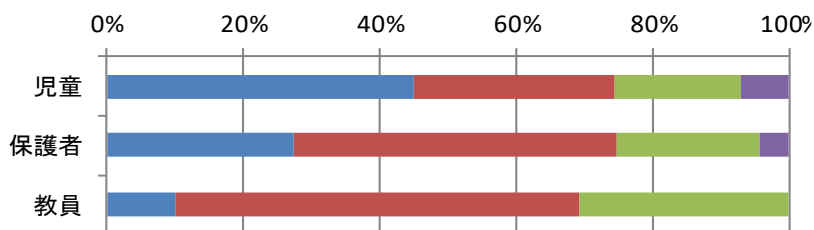
5. 課題(目標)に対して自分なりに工夫しながら解決することができる。

	A	B	C	D
児童	47.9%	32.8%	15.5%	3.8%
保護者	20.5%	53.5%	23.6%	2.4%
教員	2.6%	43.6%	51.3%	2.6%



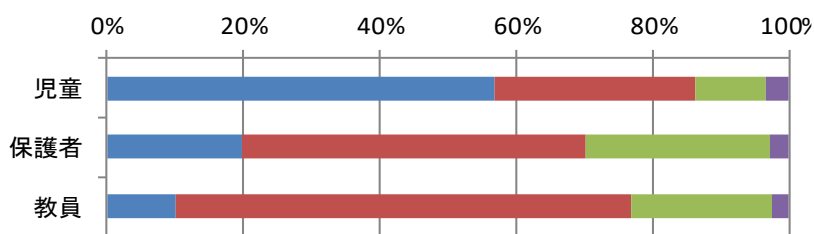
6. 自分の考えを皆の前で発表したり、友達に伝えたりすることができる。

	A	B	C	D
児童	44.9%	29.6%	18.6%	6.9%
保護者	27.5%	47.1%	21.0%	4.3%
教員	10.3%	59.0%	30.8%	0.0%



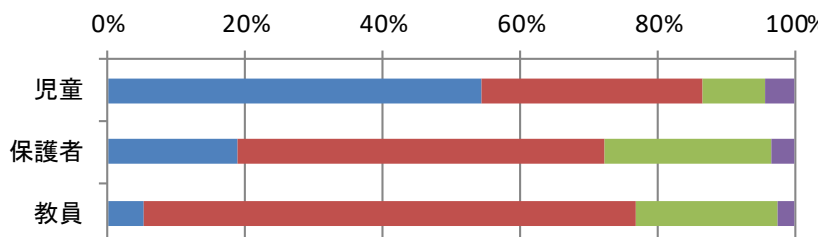
7. 夢(目標)に向かって、ねばり強く取り組んでいる。

	A	B	C	D
児童	56.8%	29.6%	10.3%	3.4%
保護者	19.9%	50.3%	27.1%	2.7%
教員	10.3%	66.7%	20.5%	2.6%



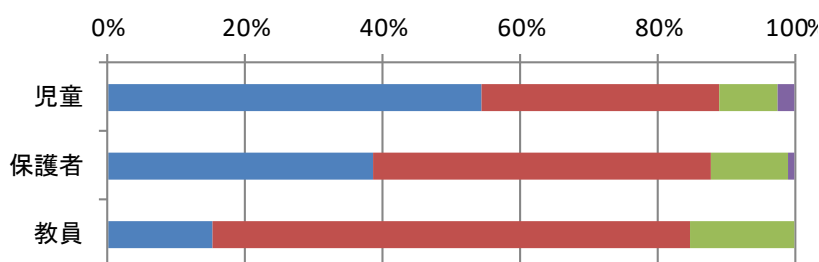
8. うまいかないことも、あきらめずに最後までやり通すことができる。

	A	B	C	D
児童	54.5%	32.1%	9.2%	4.2%
保護者	18.8%	53.7%	24.2%	3.3%
教員	5.1%	71.8%	20.5%	2.6%



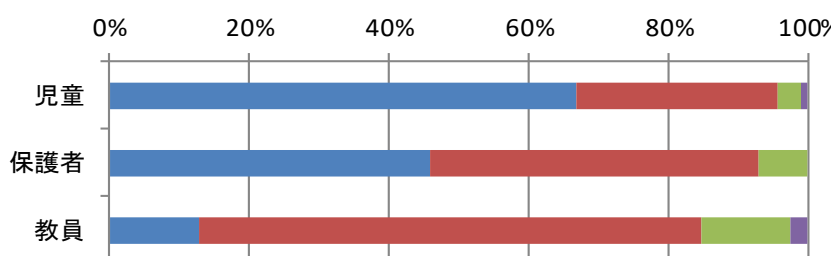
9. 健康に気を付け、規則正しい生活を送ることができる。

	A	B	C	D
児童	54.4%	34.6%	8.6%	2.4%
保護者	38.5%	49.2%	11.3%	1.0%
教員	15.4%	69.2%	15.4%	0.0%



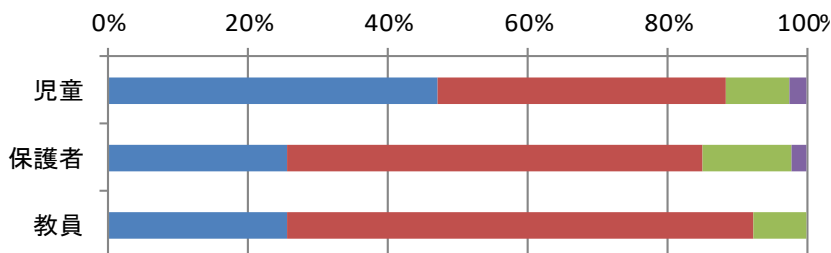
10. 自分の命を守るために、正しく判断し、行動することができる。

	A	B	C	D
児童	66.9%	28.9%	3.2%	1.0%
保護者	46.0%	46.8%	7.2%	0.0%
教員	12.8%	71.8%	12.8%	2.6%



11. (高学年)教科担任制になって、学習内容がより理解できる。

	A	B	C	D
児童	47.0%	41.4%	9.2%	2.4%
保護者	25.4%	59.5%	12.9%	2.2%
教員	25.6%	66.7%	7.7%	0.0%



Ⅲ 分析・考察

- 概ね肯定的な評価の割合が多く、学校教育目標「自ら学び、共に高め合う子」を意識し、教育活動に取り組んできたことが表れている。
- ほとんどの児童は自他ともに大切にし、互いに助け合って活動することができている。自己肯定感を高める働きかけや、いじめ防止に向けての取り組みが成果を上げていると思われる。しかし、いじめ0に向けてさらなる取り組みが必要である。
- 教科担任制の取り組みについては、一定の効果を上げていると思われる。次年度も継続しさらに研修を重ねたい。
- △「課題（目標・夢）に対して粘り強く、工夫して取り組む力」において、本校の児童の課題の大きさが浮き彫りになった。協働的な学びを通して互いに励まし合い、学びの深まりを楽しみながら共に高め合うことができる子の育成を目指し、授業改善を図っていきたい。
- △地域での挨拶ができていないという意見を多くいただいた。次年度に向けて改善を図りたい。

Ⅳ 学校運営協議会における学校関係者評価

- ・いじめの防止、早期解決への対応については、組織的に対応していくことが大切。SNSでのいじめ等、今の子どもならではの問題があり、学校だけでは難しい。家庭への啓発もしていかなければならないと思う。
- ・一例として、図画工作科の作品の仕上がりのすばらしさは、教科担任制ならではのと思う。教員は教科担任制の効果を高評価してもよい。また、保護者にもその良さを伝えていく必要がある。
- ・授業、学習については、中学年以上の保護者から学力低下気味の子供への支援を希望する声が上がっているので、個々の子供の表れに応じた支援をしていくことが大切である。
- ・「目標」と「夢」では人によって捉え方が異なるので、そこを明確にすることで、子供が目指す自分の姿が分かりやすくなると思われる。

V 今後の改善方策

- ◇今後もいじめ防止のために、保護者とのコミュニケーションを密にして、情報をより早く拾い集め、いじめの早期発見につなげていく。また、いじめが起きた際は、マニュアルを活用した早期解決に向けて迅速に取り組んでいく。
- ◇地域でも進んで挨拶ができる児童を育てていくために、中瀬っ子応援団の協力を得ながら、保護者や地域の方とのふれあいの中でその機会を増やしていく。
- ◇児童の粘り強さを育てるために、楽しんで（主体的に）学びに向かう姿を目指した授業改善、研修に取り組んでいく。また、様々な教育活動を通して児童の自己肯定感を高められるような関わりを全職員で意識していきたい。